

第 4 回地域検討会（三重県）での指摘事項に対する対応（案）

(1) 第 3 回地域検討会議事概要及び指摘事項について
 質問、コメント等は特になし。

(2) 平成 20 年度実施計画（案）

工程表のうちクリーンアップの初回の期間について指摘いただいた他、特になし。

(3) クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要について

	指摘と対応
1	<p>【指摘】17 ページ表中の「建築」は、8～15 ページの表中では「その他の人工物」に含まれているのか。</p> <p>【対応】その通りである。</p>

(4) その他の調査の進捗状況について

	指摘と対応
2	<p>【指摘】シミュレーションの調査の対象時期と結果はいつごろになるのか。また、そのシミュレーション結果をどのような形の成果とするのか。</p> <p>【対応】対象時期は、夏場を想定している。結果時期は、データのそろう状況によるが夏以降と考えている。成果は、時期的に夏場を対象とし、昨年度冬場の結果と時期の違いによる比較ができる成果を出していきたい。また、漂流物の漂流経路に大きく関与する風の変化させた場合に、どのように漂流経路が変わるのかも検討する予定である。</p>
3	<p>【指摘】可能であれば、去年のいろいろな調査結果も考慮し、今年のシミュレーション調査では、どこにどのようなものが集積しやすいのか把握できる内容にしていきたい。これにより、効率的な清掃の場所や時期などの選定に使えると考えている。</p> <p>【対応】ご指摘のように今後のゴミ回収や発生抑制につながるものにしていきたいと考えている。</p>
4	<p>【指摘】今回のシミュレーションの結果で、冬と夏と全く異なった状況が見られるのであれば、夏場にもGPSによる漂流ボトル調査実施をご一考いただきたい。</p> <p>【対応】昨年度実施したボトル、発信機を使った調査は、実際の海域での経路というものを1つ押さえることができた。次のステップとして、風の変化に伴うボトルの経路変化という検討を実施していく上で、シミュレーションのほうは複数パターンで計算できるメリットがある。なるべくシミュレーションにより、ご希望に沿えるようにしたいと思っている。</p>
5	<p>【指摘】3 ページの図 2 には中部国際空港が記載されていない。シミュレーションの実施時には、空港が出来た後の状況について注意していただきたい。</p> <p>【対応】了解した。</p>

(5) 地域における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方について

	指摘と対応
6	<p>【指摘】海岸のゴミを集めると産業廃棄物として処理しなければならない現状(有料)は、考慮されるべき問題と思うが、何か制度的に改善の動きはあるのか。</p> <p>【対応】島内の処理施設で処理できない部分は民間の処理業者にお願ひし、その分が追加的な負担になっている。ここの地域に限らず、一般的な海岸の多くのケースでは、ボランティアに回収いただいたゴミを市町村が所持している処理施設で受け入れる例が多い。この場合は、追加的な費用は生じない一方で、市町村としては追加的なゴミの処理を行う費用負担が生じている例が多くみられる。</p>
7	<p>【指摘】「災害関連緊急大規模漂着流木等処理対策事業」について、2年連続制度が変わったのは、環境省側でこのような調査を全国的にやっていることと何か連動しているのか。</p> <p>【対応】平成19年の3月に「関係省庁会議とりまとめ」がまとまっており、こういった意味で関係省庁が一丸となり、この漂着ゴミの問題については積極的になっている。それを受けて平成19年度に改正されたがそれでも足りない部分について、平成20年度において、国交省、農水省が強く要望をして制度が拡充された。</p>
8	<p>【指摘】漂着ゴミ、いわゆる一般ゴミの発生抑制はかなり難しく、今のところ県、市も主に啓発事業に頼らざるを得ないと思っている。この調査の中でペットボトルを例にすると、流域によって全然違うと思うが、伊勢湾だと愛知県、名古屋市の都市圏を持っており、ペットボトルの販売量がどうなのか、流域の人口がどうなのか、という量そのものの問題。一方で、全体量に対して漂着ゴミの量が消費活動に比例しているのかどうか。更に言うと、伊勢湾では特別に住民に対する対策が何か要るのかということも検討課題になるのかも含めて、まとめ方を検討いただきたい。</p> <p>【対応】明確なお答えができない難しい問題だと思う。回収という意味では、海岸付近にいる方々、漁協関係の方々が主体となって一生懸命実施いただいている状況だと認識している。それを、上流側の方や内陸側の方にも発信していくという意味で普及啓発が1つ大事な要素と考えている。福井県の例では、流域ゴミ問題ワークショップを検討している。川の流域を含めて、海にあるゴミの問題解決に向けてみんなで考えて取り組んでいこうという試みも実施している。このような他の地域での事例をその他の地域にも展開し、検討に使用していくことで、発生抑制もいろいろ全国の地域で考えていきたいと考えている。</p>
9	<p>【指摘】いつも海の中でゴミの問題を考える場合、海へ入ってしまったからどうするかという議論が多い。生産から消費、その消費後に海へ来るまでの経過というのが不明である。この状況を把握し、しっかりと止める方策がないと、海の中での論議をしても、最後は海に流れるという矛盾を感じる。</p> <p>【対応】先に述べたとおり、上流側の方、あるいは内陸側の方にも発信していくことで普及啓発を行うことが、発生抑制という意味でも1つは大事な要素になってくると考えている。</p>
10	<p>【指摘】毎年必ず一度、台風時期になると大雨が降り、大きい川から全部ゴミが流れる。すると、海面一面に1メートルぐらいの高さで、流木などが流れてきて、船の航行ができない状態</p>

	<p>になる。海底では、底びき網に大量のゴミが入る。おそらく、宮川の生活排水、ふだん流れてこない川の隅にたまったゴミが流れるからだと思う</p> <p>【対応】陸から海へ入り込んだゴミについては、流域を含めた地域でのゴミ問題として認識いただき、解決に向けてみんなで取り組んで行くことが重要である。このために、7県のモデル地域で調査を実施し、その内容について他の地域で反映できるもや参考となるものを普及啓発に活用できることが望ましい。ご指摘の海底ゴミの問題は、最初の全体計画の中に図があるが、瀬戸内海の海域調査の中で実施している。この調査は、7県での漂着ゴミ調査とは違い、海底にあるゴミの調査を底びき網を用いて実施した。どのようなゴミがどの程度分布しているのか、また発生抑制にはどういった取り組みが必要なのかを検討している。瀬戸内海では、レジ袋のようなゴミが海底に多いという調査結果が出ており、流域・内陸を含めた取り組みが必要であると認識ができてきている。今後は、このような他地域での検討結果等も情報共有し、包括的に解決策を考えていきたい。</p>
--	---

(6) 全体を通しての質疑応答

	指摘と対応
11	<p>【指摘】以前、希望していたが、答志島で大きな事業が行われているにもかかわらず、子供たちには一切何も知られていない状況である。ぜひ答志島の中学校の子供たちをこの調査に参加させていただきたい。ゴミ分別となると大変だが、回収の部分で自分たちの生活に関するものがいかに多いかということが子供たちにもわかり、また、その子供たちがいろいろな学校に発信していけると思っている。この調査の中で、ぜひお願いしたい。</p> <p>【対応】第6回目のクリーンアップ調査において、答志中学校から20名参加いただき、奈佐の浜でのゴミ収集作業、分類、結果整理を行った。また、分析結果から漂着ゴミのディスカッションを行った。</p>
12	<p>【指摘】生産から海に出る(漂流・漂着ゴミになる)までのプロセスに関して、J E A Nの方は「ポイ捨てじゃないか」と予想されているということだが、あまり決めつけずに、もう少し可能性を探るような取り組みが早いうちに生まれれば報告書に何らかの形で載るわけである。例えばレジンペレットなど、生産中に出るので、そのような例などについて調べておいたほうが良いのではないかと。</p> <p>【対応】漂着ゴミが海に出るまでの過程を解明する方法について検討を実施したが、これまで実施してきた調査データから判断するのは困難だと考えている。</p>

(7)その他連絡事項

特になし。